

感性、視力を育み専門性につながる無限の可能性へ

初めてのクラス担任、社会福祉学部2年生20人との1年間の授業は、NPOにとっても新しいつながりと世代を超えた市民の学びあいの機会となった。長年の活動を通して地域課題を紐解いて解決策を考えるといつも行き着くところは「教育」にあった。教育の専門家ではないが、待ったなしに育つ子どもたちの環境を視て私達に今、何が出来るか？「何とかしたい！」教育の環境の変化を危惧してきた。その場、機会をNPOの現場を通して努めてきたが限界がある。

この度、大学という教育機関につながったことは、時代の要請とも思われる。同時に市民が直感してきたNPOの取り組みの一つの成果である。時代の大きな転換期にあって多様、複雑化、潜在化する身近な暮らしの問題に向き合い課題解決の学びと実践をつづけてきたNPOの現場が学生達の教場となったことは、とても幸運な出会いである。現場の課題を学生達の専門性に直結し生きた学習になっていくはずである。また市民にとっても実践してきた地域活動に世代を超えた“命の尊厳”を人として共通の学びとすることが出来た。改めて成熟する市民社会への変革の動きを実感した。とかく生活経験の少ない学生達がグループの仲間と問題意識を高め疑問に思ったことや自分の考え、他人の考えの違いをふり返り重ねる時間は、活動の意義を自ら問いかける時間となり自分の考えを熟成させる始まりになる。また、地域につながる自分に気付き現実問題として考える始まりとなった。

直接専門性につながる現場は自分の未来につなげて考える機会にも成った。さらに福祉の実態の一端を知り、学んできた、またこれから学ぶ専門性とのギャップを事実から検証し自分の将来につないで考える機会になったはずである。サービスラーニングの学習目標とする「自己形成力」、「市民性を育む」は、学生たちだけでなく市民一人ひとりの主体性、責任性、社会性を相互に育むプロセスであり、年齢に関係なく思考力を深め蓄積され成長する生涯学習の学び方と思う。この活動、学習から「考える」ことの奥深さ、楽しさを学生達は身を持って感じた、まとめのレポートから読み取ることが出来た。それほど学生達の授業のはじめと終わりの学習に対する変化を目の当たりにした。サービスラーニングの学びが考察の視野を広げ学生達一人ひとりの個性となって多元的多様なものの見方、考え方につながると信じる。また、あらゆる学びに相乗効果となっていくことを願っている。